

脱皮する

神守中学校

令和4年度 第2学年 学年通信

No. 8

令和4年10月17日発行

薬物に関わる恐ろしさ

10月4日(火)に薬物乱用防止教室を行いました。薬物が与える体や心への悪影響について講師の方に話を聞いたり、薬物の見本や薬物を使用した人の写真を見たりしました。薬物を乱用することで自分自身の体を壊していく恐ろしさはもちろん、周りの人との関係も崩してしまう恐ろしさを理解して、実際に行動できる人になってほしいと思います。以下に、生徒の感想の一部を紹介します。



ドラッグの中にはカラフルな物だったり、かわいい物だったりがあって、使いたくなるように仕向けられているなと思いました。もし薬物の使用を誘われた時は、先生に相談してみるなど、強い意思をもって、自分の心は自分で守っていきたいです。(A組生徒)

薬局で売られている物も使い方を間違えると、薬物乱用になってしまうので、きちんと決められた数を守って薬を飲もうと思いました。薬物の使用を誘われた時に、断る方法を考えるのではなく、今のうちに断る理由を考えておこうと思いました。(B組生徒)

たばこ1本で寿命が5分30秒も短くなるということを初めて知りました。また、外国のたばこのパッケージを見て、コンビニに置いてあったら、怖くて絶対に買いません。薬物を使用することで性格だけでなく、顔まで変わってしまうということに驚きました。(C組生徒)

標本や資料を見て、薬物がどんな色や形なのかを知ることができました。女子中学生が薬物乱用をしたと書かれた資料があり、より身近に感じました。ストレスから逃れるために薬物に手を出してしまう人がいると聞いて、正しくストレスを解消できるようにしたいと思いました。(D組生徒)

薬物はどの国でも禁止されていると思っていましたが、禁止されていない国があるとは知らなかったです。友達や先輩に誘われた時に、たとえそれで人間関係が崩れたとしても断ります。また、市販薬の使用も15歳に近いからという理由で用量を守らないのはダメだと思いました。(E組生徒)